



大 山

学校だより **最終号**
平成27年3月27日
大館市立花岡中学校
文責：校長 三浦 玲子

『教育目標～郷土に誇りを持ち、主体的・創造的に生きようとする生徒の育成』

皆様に支えられ 68年の歴史に幕 花岡中学校は 私たちと共に いつまでも

とうとう、この日が来てしまいました。これまでたくさんの方々を支えられ、地域と共に歩んできた花岡中学校が、22日、その68年の歴史に幕を下ろしました。

この日は空も味方し、青空が広がる朝を迎えました。午前中に第22期の卒業生の皆様から素晴らしいお花が届いたり、閉校実行委員の方々及早々と集合し各場所の点検をしてくださったりと、式に向けて着々と準備が整いました。昼頃には、卒業生の方々が次々に来校され、用意していた300席の椅子が足りなくなるといふ事態が発生。すぐさま生徒が動き、校内の椅子をかき集めて何とか皆様に座っていただくことができました。体育館は久しぶりに会った同級生との会話がはずみながらも、どこか寂しげな雰囲気が漂っていました。

午後一時。閉校式は厳粛に始まりました。小畑市長の式辞、校長挨拶、PTA会長挨拶と続き、いよいよ全校生徒42名による「呼びかけと合唱」が始まりました。前期生徒会長の小坂渉太さんと、後期生徒会長の浪岡龍太郎さんのあいさつの後、スクリーンに写し出された校舎の写真と共に花岡中学校の沿革が紹介され、花中最後の行事の思い出が「呼びかけ」で語られました。続いてボランティア活動を中心に振り返りながら地域への感謝を述べ、最後は「伝統を受け継ぎ北陽中へ繋ぐ」決意を表明し、「いつまでも」を合唱しました。生徒一人一人の言葉は、広い体育館を埋め尽くした人々に確かに届き、「ふるさとよ ふるさとよ」と歌う合唱は会場に響き渡り、皆様の心に届いたと思います。



閉校式の朝



小畑市長 式辞



校旗 返納



22期卒業生から



応援歌



生徒会長



合唱 いつまでも



閉校式が終わり外を見ると、晴れ渡っていた空は曇り、雨が降り始めていました。まるで空も閉校に涙してくれているように感じました。

後日、学校に第15代校長の小野奎司先生からお手紙を頂戴致しましたので、紹介します。



感謝 そして お疲れ様でした (立派な閉校記念行事)

～ 略 ～

思えばこの68年。これまでの卒業生、職を奉じた教職員、父母や地域住民にとって、閉校は感慨深いものです。

22日の行事に参加させていただき本当にありがとうございました。閉校式で生徒達は緊張感の中でも実に立派な呼びかけや合唱をしてくれ大感激しました。わずか42名の生徒の、あれほど力のある表現を目にし、耳にして、思わず涙がこぼれました。あれなら1・2年生も北陽中学校で立派にとけ込んで、成長を見せてくれること間違いありません。

こういう経験をしたことで、生徒達はこれからも「いざとなったときの行動力」として立派に発揮できます。陰になり、日向になって見守り育てた教職員の皆様に頭が下がります。

～ 略 ～

冬に逆戻りしてみせる天候ですが、確実に春の香りが漂っています。

三浦校長先生はじめ、皆様が新天地で実力を発揮して飛躍の日々がおとずれますようお願いし、心からの御礼といたします。

小野 奎司



このように閉校式後、たくさんの方々から生徒の姿を褒めていただくことができました。これは生徒にとって大きな自信となりました。また本校教職員のこれまでの取り組みも認めていただき、本当にありがとうございました。



閉校記念碑 除幕式

閉校記念碑の除幕式が、卒業式前日の3月7日に行われました。3年生の同窓会入会式を終えた後、全校生徒と駆けつけてくださった閉校実行委員会の皆さんや地域の方が見守



生徒代表 挨拶

中、同窓会長の鈴木洋一様と生徒代表が除幕を行いました。その後、生徒代表の鳥瀧優歩さんが「たとえ校舎が無くなっても、この記念碑があることで、たくさんの卒業生が中学校を思い出すことができる。素晴らしい記念碑をつくっていただき、ありがとうございます。」と御礼を述べました。

記念碑は職員玄関前に設置されています。黒御影石の前面には校歌の歌詞が、裏面には開校・閉校年月日が彫られています。台座は白御影石でできており、台座の下の土台も白御影石という贅沢な作りです。これは、記念碑を制作した「渡辺石材店(御成町)」の社長さんのご配慮で実現しました。コンクリートの土台では欠けることがあるため、記念碑がいつまでも美しい状態で残るように御影石にしてくださいました。本当に本校は地域の方だけではなく、様々な方に支えられていることを強く感じ、感謝の気持ちで一杯です。



いよいよ 除幕します



記念碑に触っちゃった





旅立ちの春

最後の卒業式



花岡中学校最後の卒業式が3月8日に挙行されました。この日は卒業を祝うかのように澄んだ青空が広がる日となりました。最後の卒業式を「華やかに晴れやかに」行いたいという校長の意図を汲んで、先生方は紅い絨毯を準備し、ステージの中央から卒業証書をもらいに行くという演出を考えてくれました。また12名の卒業生の保護者だけではなく、家族や地域の方にも、最後の姿を見ていただきたいとご案内をしたところ、多くの方が参列してくださいました。

卒業証書を一人一人に手渡す時、全員がしっかりと校長と目を合わせ、実に立派な態度を見せてくれました。また、「別れの言葉」では、一人一人が涙ぐみながらも後輩や同級生、家族に対する感謝の気持ちを素直に述べる事ができました。感動のクライマックスは、3年生の合唱「友～旅立ちの時～」と全校合唱「旅立ちの日に」でした。学級全員で、全校生徒で心を合わせ、全ての行事を乗り越えてきた仲間との絆が感じられる合唱に感動の涙が流れました。「やる時はやる」3年生らしい卒業式でした。

最後の学活では、学級担任が準備した3年間の写真で中学校生活を振り返りました。生徒も保護者も笑顔が絶えず、学級が温かさに包まれました。

1・2年生が拍手と花束でむかえる生徒玄関では、それぞれの姿を写真におさめ、さわやかに旅立ちました。



在校生贈る言葉



全校合唱「旅立ちの日に」



多くの方に見守られ

喜びの春

全員合格 サタラ咲く

今年度の高校入試の結果が13日に発表されました。花岡中学校最後の3年生は、全員合格！という快挙を成し遂げ、校史を締めくくってくれました。今年はどここの高校も「狭き門」でしたが、毎日放課後に教室で自主学習を続ける姿を、受検の神様は見えてくれたのでしょうか。卒業式の式辞の中で話しましたが、「どの高校に入ったかではなく、3年間をどう過ごしたか」が大切です。この喜びを大切にして、4月からの高校生活を充実したものにしてください。おめでとう！！

卒業生の進路状況

高校名	人数
県立大館鳳鳴高等学校	3
県立大館桂高等学校	1
県立大館高等学校	1
県立大館工業高等学校	2
県立大館国際情報学院高等学校	2
県立秋田北鷹高等学校	3



別れの春 ありがとうございます

春は別れの季節でもあります。

39年にわたり、養護教諭として勤務されてきた高谷信子先生は、この春でご退職になります。本来であれば、昨年度で退職になられるはずでしたが、花岡中学校の最後と3年生を見届けたいという強い希望があり、再任用という形で本校に残っていただきました。生徒の悩みを親身になって聞いてくださったり、健康の相談にのったりと、様々な面で大変お世話になりました。四月からはご自分の趣味を生かしながら、ゆっくりとお過ごしください。

閉校に伴う教職員人事異動で、教職員もそれぞれの勤務校へと転出することになりました。25日の退任式・退校式での教職員の挨拶です。

保護者・地域の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

養護教諭 高谷 信子 先生(在職5年) ご退職



長い教職員生活の中で、何度も辞めようと思ったことがあります。しかし、皆さんに支えられたことや、健康であったことで、ここまでこれました。

生徒の皆さんも、自分の限界を決めないで、可能性を信じて頑張ってください。踏まれても立ち上がる雑草のように、生きていってください。

教頭 小澤 啓司 先生(在職1年)

大館市立扇田小学校へ

花中で学んだ「一生懸命」と「あいさつ」を扇田小学校へ引き継いでいきたいと思っています。

教諭 佐々木 聖 先生(在職3年)

大館市立成章中学校へ

8547名の花中卒業生の一人として、後輩に言っておきたい。お互いに頑張りましょう。

教諭 成田 めぐみ 先生(在職2年)

小坂町立小坂中学校へ

1・2年生は「花中プライド」をもって「北陽ブランド」を創ってください。3年生は「花中プライド」を夢にかえていってください。

教諭 三浦 薫 先生(在職7年)

大館市立東中学校へ

桜はその場所で咲く。花は場所を選ばず咲く。人も場所を選ばず咲きたいものです。東中の生徒を北陽中の生徒に負けない生徒に育てるため、私ももう一花咲かせます。

教諭 羽澤 律加子 先生(在職6年)

大館市立第一中学校へ

花中の12.5倍の人数の学校へ行きます。皆さんと同じく期待と不安がありますが、お互いに花中で褒められたり怒られたりした経験を生かして頑張っていきましょう。

教諭 藤田 真弓 先生(在職1年)

大館市立北陽中学校へ

「自立 努力 誠実」の校訓を胸に、新しい場所でお互いに一生懸命頑張っていきましょう。

主査 加藤 肇 先生(在職2年)

秋田市立土崎小学校へ

花中では地域を意識した2年間でした。秋田市は私の地元です。遠くにいても皆さんの活躍を祈っています。

教諭 兜森 保範 先生(在職1年)

大館市立北陽中学校へ

この一年でたくさんのキラッと輝く姿を見ることができました。42人全員での輝き、一人一人の輝き、色々な輝きがありました。新しい学校でも自分らしく輝いてください。

教諭 加藤 翔太郎 先生(在職3年)

三種町立琴丘中学校へ

遠く離れた三種町の学校に行くことは寂しいけれど、僕たちが見上げる空はいつも繋がっている。さよなら、そしてありがとう。再び会えるその日まで。

支援員 山本 翔太 先生(在職2年)

大館市立北陽中学校へ

後悔することなく、一日一日を楽しみながら過ごしてください。

校務主事 熊谷 純一 さん(在職2年)

大館市立城南小学校へ

皆さんと過ごした日々は、良い思い出です。ありがとうございました。

校長 三浦 玲子(在職2年)

大館市立比内中学校へ

この2年間、地域・保護者の皆様から支えていただき、楽しく充実した日々を過ごすことができました。なかなか経験できない「閉校」も経験させて戴きました。この2年間で見事に成長した生徒達を本当に誇りに思います。皆様からのご恩に対し、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちは、次の勤務校で一生懸命頑張る事でお返ししたいと思っています。お世話になりました。ありがとうございました。

校務主事 畠山 千穂子 さん(在職6年)

大館市立釈迦内小学校へ

釈迦内小は近くなので、いつでも寄ってください。皆さん、頑張ってください。

閉校式 校長挨拶（全文）

花岡川の桜の木々は伸び伸びと枝をはり、その枝先をほんのりピンク色に染め始めています。そして、50年の時を重ねた大木らしく、今日ここに集いし私たちの思いを懐深く受け止め、閉校となる学舎を温かく見守っているように感じます。

本日は、秋田県議会議員 鈴木洋一様をはじめ、たくさんのご来賓の皆様、保護者、地域、卒業生の皆様方のご臨席を賜り、花岡中学校閉校式を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

第8547号、2週間前の卒業式で最後に読み上げた卒業証書の番号です。この後に続く番号はもう無いのだと思うと、こみ上げてくるものを押さえることができませんでした。さかのぼること68年前、戦後の学制改革によって新制中学校が発足した昭和22年4月、新たな時代の新しい教育を実施するため、花岡中学校は花岡小学校の校舎を借りて創立されています。教室不足のため鉾山青年学校をお借りしたり、学芸会を鉾山共楽館で行ったりするなど、いつも地域に温かく見守られ助けられてきました。また、この年から、卒業生に対し花岡町長賞、PTA会長賞が設けられ、その後、鉾山所長賞、鳥潟賞、女子教育振興のための教育委員会賞が加わっています。これらの賞は、花中生の頑張りを認め励まし育もうとする地域の皆様の大きな期待であり、校歌にうたわれている「ふるさとの明日を担い 日々の学びを豊に築く」という明確な人材育成の理念でもあります。そして平成13年度から始まった「ようこそ先輩課外授業」では、様々な分野で活躍されている諸先輩の講演から、生徒達は働くことの意義や生きることについて学んできました。現在大館市が力を入れている「ふるさとキャリア教育」が、このように本校創立時から今日まで続いていることに、今更ながら花岡中学校の伝統の重みを感じずにはられません。

このような地域の熱い思いに応え、各部の活躍も校史に燦然と輝いています。陸上競技部、野球部、女子バレー部、吹奏楽部などの全県での活躍に加え、東北にもその名を轟かせた水泳部。おそらく大会前の激励会では、この体育館一杯に応援団と生徒によるエールが響いたにちがいありません。

創立以来、教育に対する熱い思いは、いつの時代も変わることなく花岡中学校に注がれ、様々な教育活動や何事にも前向きに取り組む生徒の気質は、脈々と受け継がれてきました。

フィナーレに向かう今年度。1学期の始業式で、「今年度は毎日が花中最後の日、最後の年だからこそ、新たな花岡中学校の歴史を創ることに大きな価値があり、それをやり遂げることがアンカーとして選ばれたあなたたちの役目である」と生徒に話しました。生徒は花岡中学校が地域に支えられ、地域と共に活動してきた学校であることを十分理解していました。その表れが、本年度の生徒会テーマを「一生懸命～地域に感謝の気持ちをつたえよう～」と決めたことです。3年生のある女子生徒は決意をこめて語りました。「最後の年を最高の年にしたい」と。

桜の季節。花岡川の両岸に満開の桜が咲きそろそろ頃、早朝クリーンアップが始まりました。お花見に来た方々が気持ちよく花を愛でることができるようにとの思いを込めて。

新緑の季節。最後の運動会は、抜けるような青い空がどこまでもどこまでも広がっていました。たくさんの方が見つめる前で、42名による組み体操が見事に完成しました。友達の重さに絶え歯を食いしばる表情、ピラミッドの頂上の怖さを

グッと我慢する表情、なめらかな波を表現しようとする真剣なまなざし、一生懸命な表情はどれもいとおしく見えました。

夏休み。お盆にあわせて来校する多くの卒業生のために、全員でぞうきんがけをし校舎を磨きました。卒業生の方々が古くても綺麗な校舎で思い出に浸れるようにと。紅葉の季節。地域の宝「鳥潟会館」を全校生徒がガイドボランティアをつとめました。夏休み中の事前学習と現地練習の成果は、県内外の方々からいただいた、たくさんのお褒めの言葉となって返って来ました。そして花中祭で結実した「一生懸命」。劇、ダンス、全校合唱、裏方の仕事と、一人一人の八面六臂の活躍に、皆が感動の涙をながしました。

白銀の季節。雪かきボランティアで一人暮らしの方からいただいた、「ありがとう。何かあったらよろしく」と言う言葉は、何よりのプレゼントでした。

このように全校生徒の「素直さと一生懸命」が結集し、地域の皆様に感謝の気持ちを確かに伝えることができたと思っております。

一つの行事を終えるたびに、わき上がってくる高揚感とみんなでなし遂げたという満足感は、生徒に自信を与え、次のステップへといざなってくれました。共に支え合い信頼し合って力を発揮し、成長してきた42名を誇りに思います。

生徒の皆さん、皆さんの「一生懸命」は校訓そのものでした。今、何をしなければならぬか考え「自」分を「律」し、「努力」を重ね、最後まで「誠実」にやり通す。この生徒会テーマは今日で終わりでしょうか。いいえ、中学生として、高校生として、将来は社会人として、今後も地域を担う人材として、「一生懸命」をそれぞれの人生に引き継いでいってほしいと思います。そして、自分を育ててくれた地域に感謝の気持ちを伝え続けてください。

この花岡中学校がなくなることは誠に残念です。本校にゆかりのある皆様の胸中を思う時、万感胸に迫るものがあります。しかしながら、68年にわたり築き上げられ受け継がれてきた花岡中学校の伝統は、生徒によって統合校「北陽中学校」に必ずや引き継がれます。2年生の生徒会長は力強く語っています。「花中の伝統を一つ残らず北陽中につなげていく」と。そして、花岡中学校で学んだという誇りや、全校生徒が一丸となり、閉校に向かって「一生懸命」を続けた日々は、生徒の人生を支えてくれるはずです。

閉校はゴールではなく、次へのスタートであることを、校歌は教えてくれています。

「希望にもえて ゆくわれら」

校歌を道しるべに、私たちは希望の灯火を高く掲げ歩み始めます。

結びになりますが、これまで本校の良き伝統と校風を築いてくださいました卒業生の皆様、奉職された教職員の皆様、惜しみないご支援を賜りました保護者・地域の皆様、そして今日までご指導くださいました関係機関の皆様、心より感謝を申し上げ、挨拶といたします。

平成27年3月22日



大館市立花岡中学校
校長 三浦 玲子